

# 地下資源の発見と開発

## (その4)

### 鉱山発見の開拓者たち

郷原 範造

(1) 科学的探鉱の先駆者ノーマンキビル博士  
 数年の歳月を費し 経済的な鉱物を発見するというこ  
 とは 平凡な人には至難な業である。偶然が重なって  
 鉱物を発見するというようなことも 近年は非常に少  
 なくなってきた。それでも非凡な探鉱家は森林荒野を  
 わけ入り 岩肌<sup>い</sup>に傷つきながら 異常なほどの執念で 鉱  
 物を求め歩いている。山脈や丘を越え 自然の悪条件  
 を克服し インディアンや熊たちと話すことも必要で  
 ある。こうして獲物もなくすぞすぞと帰途につく日  
 も多いにちがいない。金も不足し効果のない日々が続  
 く時 彼等を支えるものは冒険と新進の気性 フロンテ  
 ィア精神以外にない。こうしてみると鉱物の発見業  
 務は 全く骨の折れる仕事といえる。しかし近年は  
 鉱物調査も科学的となってきた。物理化学的な技術  
 を導入することにより 効果的な仕事が出来るようになり  
 このことは将来共一層の進歩発展をするにちがいない。  
 もはや人間の足だけにたよれる時代はすぎた。かくて  
 地質調査も第二の段階に入ったと考えてよい。

カナダの鉱業界の最前線で新しい調査方法を確立した  
 のは キビルマイニンググループといわれている。新  
 技術の導入は当初賛成はなかったが 石油業界が最も早  
 くこれをとり入れて成果をあげている。このグループ  
 の中に一人の科学者がいた。それがキビル博士である。  
 彼は当初 大学教授 地質物探の研究者として知られて  
 いたが 鉱物調査に科学を導入して鉱床を発見してより  
 彼は彼を取巻くグループの中心人物として活動を開始し  
 ている。彼は正しくは ノーマンキビルと呼んだ。  
 彼はサスカチワンに生まれ地元の大学で学位をうけ マ  
 サチューセツ工科大学 ハーバート大学に学び 地球  
 物理の研究を進め 1937年にはハーバート大学で再び学  
 位をえた。すぐ トロント大学の助教授に就任して  
 『地球物理探鉱』を講義した。第二次大戦中 キビル  
 博士は北アメリカのウラン トリウム<sup>ウ</sup>の分布 放射能一  
 同位元素の研究 ビタミンB<sub>2</sub>の研究に当りさらに地球物  
 理については 地球の年代 地熱 金属鉱床の成因に関  
 して約50編の論文を発表し アメリカ海軍の要請に応じ  
 て大西洋大陸棚の空中磁気探査も行なった。

第二次大戦の末期 物探に明るい見通しを得た博士は  
 ガルフオイルを通じて物探器機のカナダにおける利用権  
 を獲得し 同社に子会社 ドミニオンガルフカンパニー

の設立を要請した。彼はかくて学窓をあとに コンサ  
 ルタント業務に入り 空中探査10万マイルを初めて実施  
 した。博士は 鉱区を見ることが出来るように 空中  
 モザイク地形図というのを開発し 同時に地質も判読出  
 来るようにした。こうして地形 地質 物探の資料を  
 基に解析することを確立した。一方測定装置も次々に  
 試作改造し 1947年 キビル博士は 北オンタリオ州エ  
 メラルド湖上でものすごい 異常帯を発見したのである  
 (これが後のティマガミの大鉱床である)。

彼はドミニオンに地表調査を提案したが ドミニオン  
 は取り上げなかった。そこでキビル博士は友人と計り  
 自由な立場で活動を始めたのである。キビル博士には  
 アカデミックな分野から協力者が現われた。ブリチッ  
 シュコロビア大学のクラーク教授 トロント大学地質  
 教授ゴードンミス博士 地質技師フランク等である。  
 キビルグループはキビル博士のドミニオン退社後 直ち  
 に結成され 前記ティマガミの鉱床地帯と思われる処に  
 広く鉱区を設定し 探鉱開発を促進した。この地ティ  
 マガミは 1898年若干の鉄鉱が発見され 1900年小スケ  
 ールの銀鉱 1930年代に1 2の中小金鉱山が開発され  
 たが大成せず ほとんど話題にもならなかった処である  
 が キビル博士等によって 1955年ティマガミ鉱山会社  
 が設立され 探鉱開発されるにおよびその状況は一変し  
 てしまった。中規模ながら露天掘探掘を始め 製品を  
 アサルコのニュージャーシ製錬所や ノランダの製錬所  
 へ送鉱するようになってからは 良質の銅鉱石の賦存し  
 ている鉱床地帯として脚光を浴びた。

操業3カ月で約100万ドルの利益をあげ 1965年の終  
 わりには純益1,700万ドルに達し 年間銅メタル10万ト  
 ン平均で生産する鉱山に成長したのである。

1963年 キビルグループは また新しい組織を作った。  
 それはテックコーポレーションである。ついでゴールド  
 フィールドと共同してシルバーフィールドも設立し 金  
 銀鉱の生産探鉱も開始した。この頃より息子のノーマ  
 ンキビルジュニアが活躍を始めた。彼は父親キビルの  
 好指導教育により カリフォルニア大学を卒業 博士  
 コースを終えた技術者で テックコーポレーションの探  
 鉱担当副社長に就任した。彼は最近 『新鉱床発見に  
 は地球物理化学 写真地質学 一般地質鉱床学を100%  
 活用してこそ 数100~数1,000万tの鉱石も獲得出来る。

そのためには鉱業指導層の目覚めが必要である』とのべている。1964年 T. G. Sがティミンズにおいて驚異的な鉱床を物探で発見してより一層調査の科学化一組織化が強調され一般的になってきた。

## (2) ローネックスの発見者ローレンチェン

固執なほどの頑固さと忍耐力がまた鉱山開発には願わしい能力 性質ともいえる。30年以上にわたる固執な粘りによりカナダ太平洋岸ブリチッシュコロンビア州で二つの大鉱山をわが物としたのがイギールローレンチェンである。彼は鉱量1億トンといわれる銅モリブデンの鉱床とカナダでは稀有だといわれていた水銀の大鉱床を発見したこの成果は彼自身の蓄積した知識にもよるが三度の探鉱中止にもめげず海員または漁夫をしては資金を集め幾歳月を重ねてこれに当るという頑固さと忍耐そして信念が彼の人生に光明をもたらしたといえる。

ローレンチェンはノルウェーの海運国に生まれた。若い頃は北極に近いグリーンランドまで漁夫として出漁しバルチック海とグリーンランドを数回往復した。遠くシベリア付近にも出かけ第一次大戦中はソ連の北方にも出漁したことが多かったという。

2カ年ノルウェーの定期船にも海員として働き西アフリカの黄金海岸にも数回航海した。ここで彼は始めてマンガン鉱に興味を持ち鉱床の露天掘を知った。

1932年ローレンチェンは日頃考えていたカナダ移民を履行しブリチッシュコロンビア州のプリンスルパートに住み漁業に生活を託した。しかし漁業は気象に左右されるためこれに代る仕事を探し1934年ミント金鉱山の坑夫として働くことになった。彼はここで寒い冬は暖かい坑内で働き春から夏にかけては山や丘を越えて鉱物の探鉱を始めたのである。ローレンチェンは後年こんなことをのべている。『鉱石なんてものは容易に見つかるものではない。鉱石を発見出来る人は仕事に忍耐強くかつ真剣に取り組みその上知識を100%理解し活用出来る場合に限られる』と。ローレンチェンは山奥の湖上の島にキャンプを作りここで鉱物学地質学の独学を始め彼の苦しい人生が始まった。こうして数年はまたたく間にすぎ成果は全く上らなかつた。山を歩きだして6年目彼ははじめてタングステン鉱を発見した。それは小スケールであるが高品位の灰重石脈であった。彼は早速鉱夫を集め3カ年間アトラス製鋼所に精鉱を出荷したが大きい利益はなかつたという。しかし彼にとっては始めての鉱山開発でありその経験は何にもまして貴重な利益であった。

1948年一人の探鉱家が彼にコバルトとウランからな

る鉱石を見せた。彼はその鉱石がウラン鉱と聞いて吃驚した。それは彼がいつも歩いている処の岩石だったからである。その探鉱家はその岩石が何処から出たものかは知らなかつた。ローレンチェンはその岩石の産状を話しここに二人で鉱区を設定しブリチッシュコロンビア州で最初のウランシンジケートを設立したのである。しかし生産は上らず生活にも困ったローレンチェンは再び漁夫となり海員をして資金作りを行なった。この頃から多くの鉱業人が考えていたのと同じように彼も『アッシュクロフトーメリット付近のハイランドバレーの一角は銅鉱床としては世界に注目されるにちがいない』と信じていた。そして1954年から55年にわたってこの付近が銅鉱山探鉱ブームになった頃彼はアメリカ探鉱班の助手をしていた。同時に資金も貯つたので1955年から積極的に鉱区を設定した。彼はベツレヘム銅鉱山鉱区の南部一角に広く鉱区を設定したその付近は他の鉱業人が全く興味を示さなかつた処である。彼はこれを自分の領域にした。多くの人達は彼のこうした行動を笑い相手にしなかつた。しかし彼は銅鉱山になることを固く信じて疑わなかつた。たいへんな信じ方であつたという。こうした時銅鉱山開発のブームは下火となつた。若干の人がこの地に残り多くの探鉱家は他に移つて行つたが『ローレンチェンはベツレヘムだけが銅山ではない』と固く信じて動かなかつた。もちろん彼も探鉱開発には莫大な資金が必要であり表土が厚い時は地球物理化学を利用した探鉱の必要性や大きい会社との共同事業も知つていたが彼は鉱区延長を申請し手の下しようもなく数年を無駄にすごしてしまつた。ただ金も力もない彼はわずかな露頭を手懸りに歩き廻り圧砕された花崗岩中に銅の鉱化作用があり孔雀石黄銅鉱が鉱染しベツレヘムと同じ斑岩銅鉱床であることを一層確信した。こうした発見から彼は始めて資金協力のため他の探鉱家に援助を求めた。その相手がダビットロスである。ロスもこの地に鉱区を持ち以前鉱業で成功した経歴の持主である。かくてローレンチェンとロスは共同し二人の名前に因みここにローネックスマイニングコーポレーションを設立したのである。

其の後はブリチッシュコロンビア大学のホワイト博士やスキーレ博士の協力を得て100本の試錐3,000mやブルドーザートレンチが促進され銅の鉱化作用は幅1,200m延長1,400mに達することが確められ鉱床として『ディスクバレイ』『ノース』の2鉱体が明らかにされたのである。ノース鉱体は延長900m幅500mであり深さは300mのデメンジョンを有する大規模

なものである。特に富鉱体は地表より 20m~30mの間に斑銅鉱 黄銅鉱よりなることも確かめられ この時点で 鉱山会社リオ・アルゴムが協力することとなり露天掘で採掘されることとなったのである。なお一部は坑内掘も検討されている。またディスカベリィ鉱体はノース鉱体の探鉱が終わったあと続けられている。

ノーザンマイナー紙によると鉱石の平均品位は 銅0.5% モリブデン0.03%であり リオアルゴム社が探鉱開発を進め ローレンチェンとロスが役員とすることを契約条件にしている。ローレンチェンは最近この地にローネックスの手によって 銅製錬所を建設することを考えている。彼はまた水銀の生産でも成功している。ローレンチェンは 友人のフィリップがあきらめた水銀の鉱区を譲受け ローレンチェン エンパイヤー水銀開発会社を設立して開発した。運よく1943年の世界第二次大戦中 きわめて高い需要に恵まれ 年間156トンの水銀を出荷したと発表している。鉱物は辰砂からなっている。水銀といえば スペインとイタリアの大鉱山が思い出される。両国は世界でも最大級の鉱山を擁しているが 特に大きく最高の品位を誇っているのは スペインのアルマーデンである。すでに 2000年以上の歴史を有し 生産は今日でも年間3,750トンに達している。イタリアはツカニ州が主体で 年間2,500トン生産している。元来 水銀鉱業はきわめてリスクイなものである。その理由は 水銀鉱物の辰砂がきわめて不規則な分布をしており その上 水銀の国際相場が変動著しいためである。上記 エンパイヤー水銀は現実的には盛衰著しい。でも今日まで延々と生産を続け 多くの地質学者はなお 1,000万トン以上の水銀鉱が埋蔵されているとみており ローレンチェンは 全く運の強い男である。

### (3) 鉱物発見の開拓者たち

鉱物を発見ということは別ないい方をすれば 運食 根の昇華といえる。ここに三 四例をあげて紹介する。ここに2人の外科医者がいた。一人はウィリアムアディソン博士 他一人はジュリアンロードン博士である。二人共鉱物に興味を持ち 特にアディソンが熱心だった。1906年2人はオンタリオ州のレーダー湖に銅鉱物を発見して鉱区を設定した。これに助力したのが地方役員をしていたエドワードカーである。3人は共同して資金を持ちより会社を設立した。これが有名なカーアディソンマインズ会社である。この会社には創立当時 またジョージウエプスターが協力し 医者一人ロードンは身を引いたが 貪慾なまでに初志を貫いたアディソンは着実に会社をのぼし 主として金を

生産し 1963年末までに実に2億7,000万ドル分販売して今日に至っているという。

二人の仲の良い兄弟が ある日ウサギ狩りをした。兄はウィリアムビルライトといい 弟はエドハーグビルライトと呼ばれていた。二人はウサギを追いすぎて道に迷ってしまった。進退きわまって野宿で数夜をすごしたが ある日 兄のウィリアムが石英に孔雀石 自然金からなる鉱石を幸運にも発見した。これがのちに発展したライターハーグリーブ鉱山である。しかし弟のエドは鉱山は 野蛮であるといって身を引いたので 根生のあった兄のビルはその後単独で会社を営み 莫大な利益を得たといわれている。

1910年頃 探鉱家のハーリオーク ビルジョージ トムタフの三人は アメリカ大陸の鉱山キャンプを歩いていた。零下50°Cの夜には肌をすり寄せて過したという。そのうち病魔と失望にビルジョージがたおれたが 残った二人は苦悩を背にしなが信念を貫き遂に金鉱を発見し 後にターフォークス鉱山 その後名前を変えてトブルン金鉱山を仕上げたのである。この鉱山は1930年代 カナダでは大規模な鉱山で 設立当初の会社株価は 15セントであったが一時は64ドルまで上昇し 1960年鉱量枯渇まで 約2億5,600万ドル分の生産をしている。

ロストム 彼の名前は カナダでは多数の鉄鉱石を発見した人として知られている。1946年頃 探鉱家トムは 大西洋岸に近いウンガバに鉄らしい鉱石のあることを聞き 46日間の不眠不休の旅をして鉄鉱床の鉱徴を発見した。1年後 トロントの法律家の協力をえて探鉱し 一度は 失敗に終わり 再びウンガバ湾周辺を根気よく探し廻った。かくてトムは二つの鉄の大鉱床を発見したのである。これも運 食 根の昇華であろう。トムは カナダ生まれのアメリカ金融家を仲間に入れ 1956年には北極に近いバフィン島で 1957年には北ラブラドルで鉄の大鉱床を発見している。1928年頃カナダで最も成功した鉱業マンの一人にフレドリックコンネルがいる。彼は最近脚光を浴びているラブラドル大鉄鉱床の発見者である。カーアディソンの開発 ユーコンのケノヒル鉱山開発 カイザー石棉の開発にも参画している。

兄弟チーム 親子の探鉱チームの鉱石発見も少なくない。1927年ムルドックとアレックスモッサー兄弟は リトルロングで金鉱を発見し コンソリデテッドモッサー社を設立してセントラルパトリシアゴールド鉱山を営んでいる。1934年兄のムルドックモッサーは グレートスレーブレイク湖畔のエローナイフ大金山も発見した功労者である。1850年来 バイレン一家は三代にわ

たり鉱業に従来した家族として知られている。初代のバイレンは16歳でサッドベリィのクレグトン鉱山に勤め25歳で鉱山経営者となり55年間活躍している。彼の3人の子供はそれぞれ次の時代の鉱業界をリードし長兄ジェロームは父親と協力して数100万ドルを稼ぎ探鉱生産会社を作り次兄のロバートはフィールドマネジャーとして末弟のノーマンはコンサルテングエンジニアとして活躍している。長兄ジェロームバイレンの子供はオンタリオ工大鉱山学科を卒業して第一線で活躍しノーマンの二人の子供も鉱業関係の学校に在学中である。この一家はエローナイフの金山やラフォルマラジオレウラニウム コムラレム レイロック ジョンスビイ イコン ニュモント グネックス等の鉱山も開発している。ギルパートラビンの話も有名である。彼はグレートベアレイクの瀝青ウラン鉱を発見した探鉱家として知られている。彼と彼の兄弟は間もなくエルドラド鉱山を開発しウランの生産を始めた。彼等はまたグンナー金山も発見開発し1936年から1942年の間に約400万ドル分の金生産をしたといわれる。マニトバ州に発見されたシエリットゴードン社のシエリドン鉱山は最近生産開始された。この鉱山は探鉱家が放棄した鉱区を同社の技師ブラウンが再調査し成功したものである。再調査一発見によって成功した例としてエドワードミラーの話がある。彼はコバルト地区で放棄されている鉱山に注目しシルバーミラー鉱山と名を変えて再出発 水没堅坑を改修して再建に成功した。

鉱物を発見することが鉱業的成功の前提ではあるが資金調達をの道を見つけて成功した人もいる。カナダ鉱山投資家の一人アーサーホワイトはある時期にいろいろな鉱山に1,500万ドル投融資しこの結果は数倍の還元を得て成功している。

ニューヨークの新聞記者が第一次大戦後 ジャーナリストを辞め身を鉱山に投じて成功しているものもいる。彼はランドローフミルと呼ばれニューヨークの金融界記者生活から今後の発展はカナダの鉱業界と読み北ケベック州のチボガモウに目をつけて探鉱を始めコンソリデットチボガモウゴールドフィールドを設立し鉱区の一部が新しい銅鉱地帯を占めこの地で最初に成功したチボガモウ銅鉱山の基礎を作った。

欧州から移民してカナダ市民となったランディミルは家族の協力で大成した人である。移民後ラブラドルの鉄の話聞いたミルはその地を訪れて有望性を確かめた。ミルは州政府のほか母国のイギリス政府にも協力を申請したが受理されず失望の淵に立った。この時彼の夫人とその家族はすべての財産を整理してこれに当て遂に成功したといわれ今日彼は14の会社々

長と多くの会社役員をしている。

鉱石発見のあと 鉱山として成功させるためには探鉱家が地質の知識を充分備えているか若しくはその人が地質技師であることが必要不可欠なことである。

鉱業界では今日次第に鉱山発見は『科学』となっている。鉱石を理解しこれが鉱山を進展させるといっても過言でない。カナダの地質コンサルタントのグループの一つに『トロントパートナーシップ』というのがある。ジェームスパーハム および クーパーといった人達のグループで彼等の助言や発言はカナダいや世界の大会社も重視しているし彼等は今まで多くの鉱山を発見しているし資金調達に大きい力となっている。若し彼等が鉱区について『ポテンシャルティあり』と発言したらその所有者達は資金調達について困ることはないと言われている。彼等の一人ウィリアムジェームスは三つの大学を卒業している博士で有名なギル博士とラブラドル鉄鉱床を明らかにして開発を成功させておりケベックのいろいろな鉱山にも寄与している。またパーハムと協力してカナダの諸鉱山たとえばアウノーア チェタービル プローランリーフ エメラルドタングステン イーストサリバン マカッサ ローイン鉱山を成功させている。従ってジェームスの名前はカナダの大きい会社の重役会メンバー表によくみられる。最近このグループに参画しているマースクーパーはグランピイマイニングカンパニーリミテッドの副社長兼重役であり同時にマニトウバビューマインズの総支配人でもある。1964年のカナダ鉱業会はジェームス博士にインコ製白金メタルを送り多年の功績を表彰したという。地質技師の重要な一面として 鉱物発見 鉱山開発に使命の多いことが痛感されるものである。

#### (4) カナダの鉄鉱床の発見と開発

フランス人がカナダに『新世界フランス』を建設しようとしてセントローレンス河の北側に住みついて約250年になる。その当時すでに付近で鉄鉱石の発見はあったが1736年トロイスリベレスに北アメリカで始めて熔鉱炉が建設されて細々と生産が始まった。しかしそれ以上の探鉱は進まなかった。これはアメリカのミネソタ州のメサビ地方の方が立地的にも鉱床的にも有望であるとされたからで同時に1890年代ではカナダの鉄鋼業界がふるわず需要も少なかったからである。1897年 鉱業界にワワレイク一帯に砂金が大量出るらしいという噂が流れ多くの探鉱家達がこの地にやってきた。この内にベンジャミンポイヤール アコイスゴイツという二人の探鉱家もいた。二人はワワレイクの北湖岸で鉄の大露頭を発見した。今日これがヘレン鉱山とな

っている。この露頭が基で次々に新鉱床が発見されジョセフィン鉱山 ルスラッスイ鉱山も開発されている。一方 スペリオール湖の北岸 ポートアーサー近くで 19世紀の末遊浪の探鉱家によって鉄鉱床が発見された。1897年カナダ地質調査所や クィンズ大学の教授達が調査し アメリカメサビ鉄鉱床の同一層準であり 経済的価値の高いものと発表した。そこでいろいろな会社が探鉱を進めたが成功しなかった。しかしクィンズ大学鉱物学教授ジュリアンクロスの指示した ステープロックでは磁気異常地と鉱床賦存地は一致し ここに大鉱床が把握され 1939年 ステープロックアイアンマインズリミテッドが設立され 開発されるに至ったのである。なお探鉱開発は時間を要し 実質の露天掘探掘は1944年に始まっている。その後堅坑による生産となり1956年からは坑内掘りとなっている。初めての鉄の探鉱家達が カナダオンタリオ州の北西部山塊を調査していた頃連邦政府地質調査所の鉄鉱調査団は ケベックの北東部ウンガバ及びラブラドルー帯について検討していた。政府としては何とかしてこの付近の未開発地を切り開きたいためである。この調査に注目したのはアイゲルである。またフレドリックコンネルである。この二人は別々の行動で鉄の露頭を発見し 特に後者のコンネルは二人の地質技師を備入れて 75,000ドルを使って探鉱したという しかしその後は 著しい成果は上らず15年の歳月が流れた。

1930年 トロントの探鉱家 コルビルがラブラドル地区に鉱区を設定し ラブラドルマイニングアンドエクスプロレーションを設立して開発に乗出した。インディアン達も同社の地質家レチ博士を助けたので鉱床は次々と把握され 6つの大鉱床が確認されている。

またマッケイと呼ばれる探鉱家も 資金を投じ 1939年鉱区を設定して 探鉱開発に進出した。こうして獲得されたこの地の鉄鉱石は4億トンといわれている。1949年 科学的調査が行なわれ 埋蔵量の $\frac{2}{3}$ はウンガバに  $\frac{1}{3}$ はラブラドル州内に分布することが確認され 鉱石は Fe 60% を占め 不純物の少ない良質のもので露天掘も可能と保証された。しかし鉱山開発をするに当ってなお重要な問題があった。それはセントローレンス河から約 570km 内陸でありその輸送一鉄道布設であった。しかしこれには政府の協力も行なわれ セプトアイレスには近代的な積出港が開港され鉱山に近い処には新しい町『シユーハービル』が建設された。こうしてこのプロジェクトには4億ドルが投下されたといわれる。鉱山からは年間1,000万トンが出荷され カナダの需要約400万トンを残してアメリカ市場に出されることとなり 1956年には荒野の中に鉄道が開通し カナ

ダも世界の鉄供給国となったのである。カナダには他にも鉄鉱山があり ステープロックおよびノブレイク等鉱山がドラマテックな例であろう。ニューファンドランドのベル島にあるワバナ鉱山は1895年以来生産されているが鉱量は全く無尽蔵で 大西洋の海底に伸びている。鉱石はイギリス ドイツおよびノバスコチアのケープブレトン製鉄所に送られている。1965年また ラブラドルで他の大鉱山が生産を開始した。カナディアンジャベリンワブッシュレイク鉱山である。日産45,000トンを生産し ホリンジャーの鉄道を經由してセントアイレス港より船積されている。

#### (5) 道路人夫より大成したマツキンタイヤー

今世紀の最初の10年の終わりに近いある日 アレクサンダーオリハントはスコットランドで道路人夫をしていた。不幸にも貧乏な彼は妻さえ娶れず人生をうらんでいた。オリハントは祖先の家から遠くに行くことを決め 青い鳥をめざして家を飛出すことを決心していた。偶然にまとまった結婚で一時は心にもぶりがけたが 新天地行を妻にも話してカナダ移民を決行してしまった。移民先は政府の紹介によって北オンタリオ州のポキュバイン地方であった しかしそこは荒野で夢みた青い鳥はどこにもいなかった。妻のオリハント夫人は『だまされた』といって スコットランドグラスゴーに帰って行った。オリハントはカナダに到着した時から第二の人生を歩くと称して『サンディマツキンタイヤー』と名のり 妻が去ったあとと再び人夫となり鉄道建設の工事に出かけた。鉄道工事に従事している間にマツキンタイヤーはいろいろな勉強をはじめ 人が変わったように勤勉家となった。彼は探鉱家になることを決心し 1909年頃 友人のハンスパットナーとギリスレイク周辺を探鉱して廻った。ここで二人は幸運の星を見付けた。花崗岩中の石英の細脈ではあったが これがマツキンタイヤー鉱業史のはじまりである。

石英の細脈は当時 周囲の人達は素人が何をいうかといって相手にしてくれなかった。しかし彼はそれから周辺を探鉱し 数多くの石英脈を発見したので鉱区を設定した。資金に困りその一部を25ドルで売買しましたが1911年ここにアルバートフリーマンが登場するのである。フリーマンはマツキンタイヤーの鉱区を見て歩き これは面白いといって 25万ドルを融資してくれたのである。マツキンタイヤーはここで まず探鉱を一層促進すると共に マツキンタイヤーポキュバインマインズリミテッドを設立し 漸次探鉱を拡大し 一介の人夫から苦難の末 北オンタリオでは指折りの探鉱家に成長し 以来60年間 盛大に生産し 非鉄金属鉱山会社となったのであ

る。その間マッキンタイヤーは ナイトアワクレイク 鉱山やアウヘス兄弟の協力を得てキークランドレイク 鉱山等も開発し成功している。1915年 マッキンタイヤーの恩人 フリーマンは推されて マッキンタイヤーポキュバインの社長となり さらにビッケル エニスの二人が参加して会社を磐石なものとし 1916年からは次々と子会社を設立して会社を拡大して行った。その一つがジュピター鉱山であり 産金を行ない 他の二つがベレイティルケベック鉱山やキヤッスル銀山鉱山会社等である。キヤッスルは現在もマッキンタイヤーポキュバインの一分野として操業を続けている。マッキンタイヤーのその発展は目覚ましく 銅 石炭にも進出している。1963年にはノランダと共同で マタガミレイクマイズズの亜鉛 銅開発に参画する一方 マッキンタイヤー自身パールレイクに銅鉱山を開発している。またアルバータ州ではブルーダイヤモンド石炭鉱区を探鉱して 2億5,000万tの優良炭を獲得し 日本の会社に販売を始めている。その他 探鉱会社として ガボリィ ブロンデュローレイン会社を設立していろいろな非鉄金属鉱床を探鉱している。

近年注目されるのは マッキンタイヤーポキュバインがカナダの二つの大鉱山会社(ベンチュアーリミテッド) (ファルコンブリッジ) と互に株の持合いを行ない業務提携をしたことである。そして1957年ベンチュアーの株を33%買取っている。

#### (6) エンダコ モリブデン 鉱山の発見と開発

モリブデンは合金として使用される貴重な金属である。しかしその供給源は 自由圏の約60%がアメリカンメタルクライマックスに支配されていた。しかし 1965年からはカナダのエンダコ鉱山がモリブデンを生産し始めたので 世界のマーケットも転覆しかけている。

モリブデンの新鉱床発見は アメリカに支配されがちなカナダ鉱業界に精気を与え カナダ電子工業時代の飛躍台ともなっている。このモリブデン発見は この地ジョンスタートに白人が入植してからで この物語りに登場するのがシモンフラッシャーである。その発見の端緒はかなり古く 1806年ノースウェスト鉄道会社がこの地に工事を始めた頃 一人の青年ダムスタートが地形調査のため河をさかのぼったところ 彼は雪融の山間地に美しい無名の湖を発見した。その付近が今日のプリンスジョージ市である。彼は無名の湖に上役の名前をとってシモンフラッシャーレイクと名付けた。報告をうけたフラッシャーは彼自身この湖に来て美しさにうたれ そこに新事務所を移して そこをフォートフラッシャーと呼ぶことにした。カナダ人は名前をつけるのが

好きである。その後仕事は順調に進み内陸のエドモントンから太平洋まで鉄道は開通し 沿線には次々と町や村が出来 この鉄道工事は成功のうちに完了したのである。フラッシャーはこの工事中 モリブデン鉱を見つけたが特に興味もなく 記録にとどめたにすぎなかった。

時は流れ 1927年のある日 森林監守人のチャーレスフーテと開拓部落長のアルフレッドラングトンは ハンターの旅に出た。その経路はエンダコ河から前記フラッシャーレイクまでであったらしい。旅行の途中 二人は金属光沢をした平たい鉱物を発見したのである。旅行を止めて二人はこれを採集し モリブデンということも知らず持帰り 始めて鉱区を設定した。分析の結果これがモリブデンであることを知ったが その取扱いもわからず 堅坑や水平坑道を開さくしたものの開発に至らず放棄してしまった。

1957年～1959年 二三人の鉱業主が手がけたが低品位であるとして休止されていたが バンクーバー市でコンサルタント業をしていたクリストハーレイ博士は 低品位でも大規模操業なら収益性があるとみて 前記ラングストンフーテの鉱区を再出願して探鉱を進めてみた。しかし思い通りに進まなかった。ここに次の人物が登場する。彼はアンドリュウロバートソンといった。彼は元来は建築家であるが ノランダその他10会社の鉱山経営を行ない成功に導いた一人であり 西部にやってきた老練な技師であった。上記レイ博士より鉱区の権利を譲受けたロバートソンは RアンドPメタルコーポレーションという面白い名前の会社を設立して開発にのりだした。時は1962年1月のことである。

4カ月後 探鉱の甲斐あって 次々とモリブデンの富鉱体に着鉱し ロバートソンは1962年8月 次にエンダコマイズリミテッドを設立して 直接この鉱山開発に当ることとした。この時カナディアンエキスポレーションリミテッド(この会社はカネックスとして知られている)も参画し 資金参加をして探鉱に協力している。1962年10月には17本の試錐も完了し すべての試錐でモリブデンを確認し その鉱化帯が相当広いことが判明した。その後52本の試錐が行なわれて同じ傾向が把握されると共に付近地に進出して来た他社の鉱区も吸収合併し 1964年4月には鉱量6,600万トン  $\text{MOS}_2$  0.21% が F/R で明になった。かくて日産14,000トンの処理が決定し 今日  $\text{MOS}_2$  90～92%の精鉱が生産され エンダコカネックスを通じて欧州 日本に輸出されている。アンドリュウロバートソンは初代社長に就任し エンダコ鉱山を軌道にのせるべく努力したが 生産も順調とみてとったロバートソンは 社長をマックリランドに譲り 今日彼は一重役として協力している。(筆者は元所員)